

2009

7月

第13号



ウツディとよた

通信

WOODY TOYOTA COMMUNICATION



【発行日】平成21年7月10日
【発行】豊田森林組合
〒444-2424
豊田市足助町横枕3番地1
TEL 0565-61-1616
FAX 0565-61-1617
〈Eメール〉
soumu@woodytoyota.net
〈ホームページ〉
<http://www.woodytoyota.net/>

●表紙／緑のコーディネーター(7ページで紹介)

全議案を可決、承認

6月21日、役員選任など10件 第4回通常総代会を開催

第4回通常総代会が6月21日、豊田森林組合本所(足助町地内)で開催された。総代会には、総代199人(1人欠員)の内、169人の総代(委任状による出席者を含む)が出席した。

総代会の日程は、組合長のあいさつに続き、稲武地区の総代である塚田光生さんを議長に選出。議事録署名者には、足助地区の鈴木幸央さん、下山地区の鈴木宏金さんの二人が選任された。書記には、組合職員二人が任命された後、平成20年度事業報告、決算を始め、10件の議案について慎重な審議が行われた。その結果、全議案は、原案のとおり可決、承認された。

なお、今総代会には鈴木豊田市長をはじめ多くの来賓が出席。この内、8人が来賓を代表して、当組合に対する期待や激励、総代会の盛会をお祝いするなどのあいさつがあり、午後4時ごろ、第4回通常総代会は、閉会した。総代会終了後には、新しく選任された理事、監事による理事会、監事会が開催され、代表理事組合長に中根芳郎氏、代表監事に太田恵造氏を選出した。



見事な議事進行を務められた塚田光生さん▶

●平成20年度事業報告について

市内40地区で森づくり会議が設立 19団地、308㌔を団地化

平成20年度は自主・自立した森林組合とするため、事業量の拡大などを通して健全な経営を目指し、40の地区で森づくり会議を設置し、19団地(308㌔)の事業地を確保した。また、合併時に宣言した5項目の運営方針を検証しつつ、豊田森林組合の中期経営計画(22年度～27年度)の策定に着手した。そして、豊田市が策定し



竜林塩平団地(足助地区)は、市内初の森づくり団地として施業を実施

た「森づくり基本計画」の着実な推進、低コスト出材をめざして、高性能林業機械1セット(ハーベスタ・スイングヤーダ・フォワーダ)と機械・素材運搬用トラックを導入した。県企業庁に対し「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」における物件調査に続く、新たな事業展開をめざしての事業提案を行った。コンプライアンスの徹底や人事考課制度の定着化に努めるなどで効率的な事業推進に取り組んだ。こうした成果が組合や組合員の利益につながるよう、今後も役員、職員一丸となって一層努力する。

●20年度損益計算(決算)

経常損失は700万円余

20年度の損益は、大変厳しい経済状況下であって、減収減益となり700万円余の経常損失となった。しかし、前期繰越剰余金が2,100万円余あったことから、当期末未処分剰余金は、1,300万円余となった。この剰余金は、全額次期繰越剰余金として処分することとなった。

- 議案第1号 平成20年度 事業報告について…別記事
- 議案第2号 平成21年度 事業計画について…別記事
- 議案第3号 定款の一部改正について…別記事
- 議案第4号 平成21年度借入金の最高限度額の決定について…事業運営資金は1億2,000万円、農林漁業資金は、1,000万円を限度とする。
- 議案第5号 一組合員に対する債務保証の最高限度、平成21年度における債務保証の最高限度額の決定について…
 - ① 一組合員の債務保証限度を500万円とする。
 - ② 平成21年度における債務保証の最高限度額を5,000万円とする。

可決、承認された議案



第4回通常総代会の様子

●平成21年度事業計画について

合併5周年を契機に更なる合併効果が 実感できる組合運営をめざして

100年に一度とも言われる世界的な金融危機は、日本経済を直撃すると同時に、厳しい林業経営を一層、厳しいものとしている。

景気後退という荒波に耐えうる豊田森林組合の体制づくりが必要である。「ピンチをチャンスに変える」をモットーに役員、職員、組合員が一丸となって市民から期待される豊田森林組合の構築が求められている。

豊田森林組合が目指す組合像は、広域合併の理念そのものである。従って、平成21年度の豊田森林組合の運営方針は、「矢作川中上流域の森林の健全な育成と管理を行う中核的な担い手となるため、新しい都市型の森林組合、と共に、自主・自立した森林組合の運営を目指す」ものとする。主な取り組みは、次のとおりである。

(1) 豊田森林組合は、今年度、合併5周年を迎える。7組合の合併効果を発揮するためには、組合組織の一体化、統一が不可欠である。合併5周年を契機に更に合併の効果が実感できる取り組みを展開する。

(2) 自主・自立した森林組合とするため、事業収支のチェック体制の確立(確実な収益の確保)と経営資源の発掘(新たな事業の開発など)、事業量の拡大(20年度比3割のアップ)などを通して健全な経営をめざす。

(3) 合併時に宣言した5項目の重点項目を検証しつつ、合併後における豊田森林組合の中期整備計画(計画期間:平成22年度～26年度)を策定する。また、組合本館整備構想を策定し、同整備計画に盛り込む。

(4) 豊田市が策定した「森づくり基本計画」の着実な推進、21年度から本格始動する「森と緑づくり税」による新しい施策展開に取り組む。特に、豊田市からの支援の元、緑のコーディネーターや緑の雇用の拡大などによって、マンパワーの充実を図る。

(5) 県企業庁が進める「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」における物件調査、代替地調査の受託に続く、残地緑地の管理、保全業務などの受注ができるような提案と体制を整える。

(6) コンプライアンスの徹底と効率的な事業運営を目指すため、計画的な職員研修を実施する。

(7) 職員の活力と資質の向上を図るため、人事考課制度の定着化を進める。

(8) 本所と支所の役割分担を明確にし、効率的な事業推進を図る。

(9) 経理を始め各種の事務の効率化を目指して、経理、人事、車両管理などの事務マニュアルの作成に取り組む。

(10) 県森林組合連合会(県森連)を始め、関係団体との連携を深め、組合活動の進展を推進する。



事業計画などの議案の説明を熱心に聞き入る総代の皆さん

■議案第6号 平成21年度各種事業手数料、利用料の決定について…別記事

■議案第7号 役員選任について…別記事

■議案第8号 平成21年度役員の報酬額の決定について…理事(21人)の報酬は総額で2,500万円以内、監事(3人)は、総額で100万円以内とする。

■議案第9号 平成21年度余裕金の預け入れ先の決定について…あいち豊田農業協同組合を始め、5金融機関とする。

■議案第10号 総代会決議事項の修正に関する件について



総代の皆さんに紹介された新役員の皆さん

●役員の選任について

代表理事組合長に中根芳郎氏(豊田地区/再任)、 代表監事に太田恵造氏(足助地区/新任)

任期満了に伴って、役員改選が行われ、別表のとおり第2期豊田森林組合役員が選出された。役員の選出は、各地区(旧組合単位)で組織された「地区役員推薦会議」において人選が進められ、4月24日までに組合長へ推薦があった。組合長は、推薦に基づいて、理事会に諮ったう

えで、役員候補者として第4回通常総代会に提案した。総代会で可決、承認後、理事会、監事会が開催され、同会において、代表理事組合長、代表監事などの役職理事が選出された。なお、第2期役員の任期は、平成24年6月までの3力年です。

〈第2期 豊田森林組合 役員名簿〉

●理事

役職名	氏 名	住 所	年 齢	選挙区	備考
代表理事 組合長	中根 芳郎	豊田市坂上町	69	豊田	
専務理事	林 富造	豊田市榊野町	70	旭	
筆頭理事	川井 京一	豊田市下室町	70	豊田	
	山本 幹郎	豊田市藤岡飯野町	67	小原藤岡	
	木本 昭平	豊田市菅生町	70	足助	
	鈴木 重郎	豊田市和合町	71	下山	
	鈴木 芳郎	豊田市日下部町	71	旭	
	佐々木 忍	豊田市大野瀬町	69	稲武	
理 事	今井 紀博	豊田市百々町	69	豊田	
	山田 利幸	豊田市沢田町	65	小原藤岡	新
	勝 豊治	豊田市西細田町	65	小原藤岡	新
	鈴木 和廣	豊田市上仁木町	61	小原藤岡	新
	鳥居 岩男	豊田市三箇町	70	小原藤岡	
	築瀬 壽一	豊田市澤ノ堂町	66	足助	
	安藤 勲	豊田市上切山町	65	足助	
	川合 秀二	豊田市東川端町	62	足助	新
	青井 文一	豊田市下山田代町	74	下山	新
	大竹伊知雄	豊田市梨野町	53	下山	新
	古田 英雄	豊田市上切町	69	旭	
	小木曾健一	豊田市野入町	69	稲武	
	川角 修三	豊田市小田木町	69	稲武	

●監事

代表監事	太田 恵造	豊田市足助町	73	足助	新
監 事	勝原 照明	豊田市猿投町	68	豊田	新
	原田 茂男	豊田市有間町	68	旭	新

●定款の一部変更について

理事2人、監事1人を増員。 組合全区域から選出

改正は、理事が現在、15人以上21人以下となっている定めを15人以上、23人以下とする。監事が2人以上3人以下となっている定めを2人以上4人以下とする。定数を理事が2人、監事が1人を増員する。また、選出方法では、現行が各地区からの選出のみとなっているが、新しく、この組合の全域から選出する。

改正した理由は、2項目ある。その一つが安定した組合経営とするための役員の選任です。森林組合法の改正でも明確になっているように、より一層、役員の経営能力の向上が求められている。従って、専門性と複数年にわたる事業展開に伴う継続性を兼ね備える役員の選任が必要となった。

加藤清さんから9人に 感謝状を贈呈

今期の役員改選で勇退される役員(理事、監事)9人に対して、中根組合長から感謝状と記念品が贈呈された。皆さんは、発足間もない豊田森林組合の礎を築くなど組合運営に大変な功績を残された。受賞者(敬称略称)は、次のとおり。加藤清(李町)、鈴木一郎(連谷町)、安藤廣美(小原田代町)、川合専八郎(羽布町)、可児勉(西萩平町)、宇野泰雄(小松野町)、小木曾慶吾(稲武町)、高木皓次(川下町)、柴田邦彦(田折町)

二つめは、平成11年度制定された男女共同参画社会基本法による女性の社会参画など、森林組合を取り巻く社会環境が大きく変わりつつある。これらの環境変化に的確に対応するため、役員の選出方法の一部を改正した。

●各種事業手数料と使用料について

森づくり団地内での 造林補助金取扱手数料は免除

受託販売手数料など各種事業に伴う手数料と利用料は、別表のとおり。手数料・利用料は、昨年度と同率、同額です。

①受託販売手数料	素材販売	売上高の3%(員外3.6%)
	その他の林産物	売上高の10%(員外12%)
②受託林産手数料	伐採から販売まで	売上高の6%(員外7.2%)
	伐採と販売のみ	売上高の4.5%(員外5.4%)
	搬出と販売のみ	売上高の4.5%(員外5.4%)
	伐採と搬出のみ	事業費の14%(員外16.8%)
③受託造林事業		事業費の14%(員外16.8%)
④その他受託事業		事業費の14%(員外16.8%)
⑤諸経費	受託林産事業	伐採・搬出費の10%
	受託造林事業	労務費の10%
⑥受託購買事業		購買代金の15%
⑦買取購買事業		各項目の標準価格による
⑧金融事業		貸付金額の年0.5%
⑨造林補助金取扱手数料		補助金の10%(ただし森づくり団地については別途定める)
⑩各種調査手数料	外業	13,000円/日
	内業	10,000円/日
	材積調査	1㎡当り300円(ただし受託林産の場合は免除)
	間伐選木調査	1箇所当り5,000円 1ha当り20,000円 (ただし受託林産の場合は免除)
⑪各種証明料	山林現況証明	1筆につき1,000円(ただし、2筆目から1筆100円)
	その他の証明	1件につき1,000円
⑫木材センター	販売手数料	販売価格の9%
	はい積料	1㎡当り900円
	積込料	1㎡当り900円(員外利用は20%増し)
⑬加工手数料		1時間当り14,400円(員外利用は20%増し)
⑭モッキー販売手数料		販売価格の20%(員外30%以内)
⑮その他の利用料、手数料は理事会に一任するものとする。		
⑯前記手数料、利用料等については外税方式で5%の消費税を上乗せします。		



功績のあった皆さんに感謝状を
贈呈する中根組合長

■就任あいさつ

森林整備によって より安定した組合経営を めざす



この度、第4回通常総代会、並びに理事会において、第2期豊田森林組合の代表理事組合長に選任されたことに、今さら、その職責の大きさと重さを痛感しています。平成17

代表理事組合長に就任した
中根芳郎氏

年4月、広域合併で誕生した新生・豊田森林組合の初代組合長に就任し、5年目を迎えました。

合併時に設定しました「矢作川中上流域の森林整備を進める中核的な担い手となる、新しい都市型森林組合となる」との将来像をめざして、様々な取り組みを行ってきました。中でも、平成19年3月、豊田市が制定しました「森づくり条例」を基軸に森づくり会議による団地化施策を重点事業として位置づけ、事業着手したところ。事業量としては、平成20年度実績で約300筆余(計画比30%)と極めて少ない状況でした。取り組みの初年度であったことから、団地化への取りまとめ、進め方など未経験による事業進捗の遅れが大きな要因であった、と考えています。従って、21年度においては、市の支援の下、緑のコーディネーターを創設し、団地化の促進を図っていきます。

また、平成19年8月には、県下初となる「中核組合」として、当組合が県知事から認定を受けました。名実とも県を代表する森林組合となる組合運営が必要と考えています。このほかにも、森林サポーター、緑の応援団の育成をめざした「とよた森林学校」の開校、運営。提案型の森林整備を進めるための「緑のカルテ、緑のプラン」に取り組んできました。

100年に一度とも言われる経済危機に見舞われ、林業を取り巻く環境は、益々厳しいものがありますが、幸いにも、当組合は、県下最大の組合員数を誇る森林組合です。8,600人余の団結と協力のもと、自主、自立した組合運営をめざすことによって、安定した経営基盤が確立できるものと考えています。この課題解決に向けて邁進することが、第2期における役員の使命と認識し、今後とも、役職員一丸となって、組合事業の拡大に取り組んでいきます。組合員の皆さんの更なるご理解とご協力をお願いします。

地区懇談会から

250人余の組合員が参加 組合運営や森林整備など活発な意見交換

第4回通常総代会に備え6月8日から16日かけて、市内6会場において「地区懇談会」を開催した。懇談会には、地区推進員や連絡員を中心に250人余が参加。テーマは昨年度の事業報告や今年度の事業計画、各支所の課題、取り組みと市、県からの森林施策の動向などが中心で、各テーマについて組合役員から説明し、それに沿って参加者からは、質問や多くの意見が寄せられた。主なものは、次のとおり。



多くの意見があった地区懇談会

●主な質疑

(Q)20年度赤字決算となったが、その原因は何か。

(A)景気低迷で売上げが減少となった。また、職員間の給与の統一などの給与調整によって事業管理(費用)が増加したことが要因と考えている。

(Q)森づくり会議の設立の意義は…

(A)川下森づくり会議のメンバー(加藤)からの発言。「会議は、比較的若い森林所有者がメンバーとなっている。みんな話合っていることで、山に対する理解と境界がわかってきた。地元の交流が盛んになった。こうしたことは、会議立ち上げの効果と思っている」

(Q)作業道を開設するには…?

(A)作業道は、施業に必要な施設です。従って、森づくり会議の立ち上げ、施業計画の樹立が作業道開設の要件です。森づくり会議の設立には、所有者の理解が不可欠です。所有者への説明会には、組合、市森林課の職員がいつでも(夜でも、土・日曜日でも)出向くので、ご相談ください。

(Q)事業報告では前年対比で説明があった。わかりやすかった。今後、チャレンジスピリットの精神で事業展開を進めて欲しい。

(A)激励の発言に感謝する。合併後、組合の統一を最重要課題で取り組んできた。職員の意識改革が大切と考えて、人事考課制度の導入と定着化を進めている。森づくり計画では、年間、2,500㎡が間伐目標面積。これを達成することが組合の最大の使命と認識し、取り組んでいる。

●森林学校ニュース●

●受講者募集のお知らせ

《山主自力間伐講座》

- 日程／10月19日(月)～23日(金) 連続5日
- 内容／短期集中で間伐技術を基礎から学びます!
間伐技術を一から学びたい方、基礎を見直したい方、一緒に学びましょう!
(間伐研修4日間、豊田市の森づくりとまとめ)
- 定員／10名 (定員を超えた場合は抽選・市内に森林を所有している方優先)
- 参加費／5回分一括 5,000円
- 申し込み締切／9月28日(月)

●開催した講座レポート

《山主森林経営講座》

5月2日に始まり、9名の方が受講中です。全9回で所有林の管理や経営について学びます。第3回までは、「森林の仕組みと働き」や「間伐の必要性」など森林の基礎を学びました。第4回には、「原木きのこ栽培」ということで、マイタケの伏せ込み実習を行いました。和気あいあいと力を合わせて楽しく作業を行い、伏せこみ完了!秋の収穫が楽しみです。これから後半戦に入り、より山主らしい内容になってきます。暑さに負けず、楽しく学びましょう!



今回、紹介するのは、森づくり団地化推進要員「通称:緑のコーディネーター」の皆さんです。豊田森林組合では、今年度から豊田市の人材育成支援事業を受け、緑のコーディネーターとして5人を採用した。

平成19年10月、豊田市が策定した「森づくり基本計画」では、10年間に25,000haの森林を整備する目標が明示された。年間2,500haの間伐を達成するためマンパワーの充実は、不可欠との認識で、市と協議する中で21年度、緑のコーディネーターを創設した。

緑のコーディネーターは、森づくり会議が設立した区域内において、間伐する森林面積をより広くまとめて施業する団地化をさらに進めることを狙い、森林の周囲測量や現況調査(森のカルテ)などに取り組んでいる。

表紙の女性2人の他に男性3人が日々、汗を流している。山仕事を経験するのは、西川さんのみで、他の4人の前職は、工場勤務など様々。山仕事の心構えを始め、ヘルメットの装着方法、ナタ、ノコギリなどの使い方、そして、測量の仕方など約1カ月にわたって基本研修に取り組んだ。現在は、組合の各支所の職員と一緒に森づくりに必要な測量に毎日、頑張っている。そんな皆さんに話を聞いてみると…。

深谷幸代さん／「学生の頃から自然に関係する仕事がしたいと思っていました。山歩きに慣れていないのでバテてしまうことも多いですが、頑張っていこうと思います。」



写真は、緑のコーディネーターの皆さん
(左から深谷、相地、末富、西川、三浦の各氏)

相地理恵さん／「山の中でお弁当を食べる時間が幸せです。測量の精度をあげ、テキパキ動けるようになります。」

末富裕児さん／「サラリーマン定年後に応募しました。第二の天職になればいいなあと考えています。山歩きが好きなので、仕事は楽しいです。」

西川智基さん／「怪我をしない、させないことを心がけています。公益的機能の高い森づくりに貢献できるよう取り組んでいきたいです。」

三浦健司さん／「コンパスによる測量を担当しています。ミスを少なくし、安全第一で頑張っていきたいです。」

…と、皆さんは、意気込みたっぷりに話してくれた。まだまだ初心者ですが、前向きに仕事に取り組む姿勢は、見習うべきものがあり、私たち職員にとっても大いに刺激を受けている。

組合員や多くの市民からは、緑のコーディネーターに対して「豊田の森づくりの救世主」となることに大きな期待が寄せられている。いよいよ暑さも本番を迎えるが、地域森林管理の担い手として力を発揮できるよう頑張っていたきたい。
(鈴木実句／記)

表紙の

人物紹介

「豊田の森づくりの救世主」へ 緑のコーディネーターの活躍に期待



↑【森林セミナー】第1回 「森林の仕組みと働き」の様子。足助地区で開催し、午前は講義、午後からは香嵐渓飯盛山でフィールドワークを行いました。遊歩道沿いでも様々な動植物を観察することができました。

↓【森林セミナー】第3回 「森林の持つ公益的機能」の様子。瀬戸市の東京大学の愛知演習林で開催しました。写真はかつてはげ山だった名残を残す尾根を歩いているところです。他は緑に覆われており、森の再生力を感じました。



↑【矢作川源流の森を歩こう】第1回「寧比曾岳の東海自然歩道を歩こう」の様子。山を登る途中には、手入れされた人工林、貴重なブナ天然林、手入れ不足の人工林といろんな森があり違いがわかりました。また、途中様々な動植物に出会いました。

もうすぐ夏休み!



夏休みに親子で やってみよう 木工工作!!

山で間伐を行うと間伐材ができます。普段は切り捨てをしますので、そのまま山に捨ててしまうのですが、この間伐材を利用したのが工作キットです。

比較的簡単に組立が可能で、休日にお子様と一緒にいかがでしょうか?とてもエコな商品ですよ。もともと国産材!!

●ベンチキット(中/小)



(中) ¥1,575



(小) ¥1,050

●プランターカバー



¥1,260

※組み立てに必要なネジ・説明書は同封してあります。
※組み立てには「電動ドライバー」が必要です。

最寄りの森林組合支所で販売しています。

組合員アンケートにご協力を!!

豊田森林組合では、より良い組合運営をめざして、今後6年間の経営指針となる中期経営計画の策定に着手しました。

そこで、組合員の皆さんが山林についてどのようなことを考え、また、組合に何を求めているのか、などのご意見を伺うため、次のとおり組合員アンケートを実施しますので、ご協力をお願いします。

●組合員アンケートの内容

対象

組合員名簿から地区ごとに無作為で抽出した組合員800人がアンケート調査の対象となります。

方法

7月10日(金)にアンケート調査票(A4判両面)を郵送します。アンケートが届いた組合員は、アンケート調査票に回答の上、同封の返信封筒を利用し、7月31日(金)までに投函いただくようお願いします。

その他

アンケートが届かなかった組合員で組合の運営についてご意見などございましたら、企画営業課までお寄せいただければ幸いです。

【問合せ】 企画営業課(電話61-1616 FAX61-1617)

**7月31日(金)
までに回答**



高性能林業機械を駆使してコストダウンをめざす